

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 日本における妊婦のアレルギーとメンタルヘルスとQoLについて

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Allergy and Clinical Immunology in Practice

年: 2018 月: 2 巻:

頁:

筆頭著者名: 山本貴和子

所属UC名: メディカルサポートセンター

目的:

アレルギー既往がある妊婦と精神健康に関連について検討する。

方法:

研究デザインは、出生コホート内横断的研究である。研究対象は、エコチル調査への参加に同意している99,995名の母親とした。データ収集は、妊娠初期の登録時に母親に対して自記式の質問票調査を行い、妊娠初期の登録時に母親から血液を採取した。

結果:

K-6 scores ≥ 13 と ≥ 5 であった妊婦は、それぞれ 3.5%、31.9% であった。IgE 感作は 54.2% に認められた。Der p 1 や動物上皮やガ(蛾)の感作は、K-6 ≥ 5 になるリスクが有意に高かった。PCSスコアにおいては、Der p 1 感作のみ有意に負の関連があった(regression coefficient of -0.145)。アレルギー疾患があると、K-6 ≥ 5 が有意に高くなり、MCS やPCSスコアが有意に低下していた。

考察:(研究の限界を含める)

日本の人口におけるアレルギー既往がある妊婦と精神健康に関連があることを初めて示した。サイトカインなどアレルギーに関する炎症物質が脳神経などに影響を与える可能性が示唆された。

結論:

妊婦健診時にアレルギー既往の妊婦に対してより追加のサポートが必要であるのではないかと考えられた。うつはK-6スコアを用いて評価し、QoLについてはSF-8スコアを用いて評価した。